

■安積中学校■安積高等学校在京同窓生

東京桑野会会報

●1990年4月1日発行 ●発行・編集人 澤田 悌 ●発行所 東京桑野会事務局 〒160 東京都新宿区新宿1-3-8YKB新宿御苑804



戦争と平和を予言する若き日の朝河貫一博士を偲びて（水田莊介画）



12

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何んらかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること



ご挨拶

東京桑野会会長 澤田 悌

平成2年を迎え会員の皆さんには益々ご健勝にお過ごしのことと存じます。

例年のことですが、来る4月13日(金)には東京桑野会の定期総会が椿山荘で盛大に開催される予定になっております。本年は母校創立106周年に当たるのですが、東京桑野会はその100周年の時盛大な祝賀記念会を挙げて気分を盛り上げ、その後引き続き会の充実発展に努めて参りました。会報も今回第12号を皆さんにお届けすることができました。

いつも会報の一面に掲記してありますが、東京桑野会のモットーの趣旨は、郡山桑野の母校に学んだという共通の経験を持つ同窓生が、東京地方において相集い親しみ楽しみを共にしようという親睦の会でありますから、年に一度の会員総会には多数の皆さんが気軽に出席下さって、故郷を偲び母校を回顧して語り会いたいと思うのであります。

日頃会の運営に当たる役員の方々には色々ご苦労を願っておりますが、今回各年次の幹事さんを増員するなど役員陣の一層の充実をはかりました。そして会の存立と運営になくはならぬ会員名簿をしっかりとものに改訂する必要があるため、近く関係委員と事務局の骨折りで名簿の新版を作りますので、ご入手の上ご活用をお願いいたします。更に充実した会報を皆さんにお届けすることが、会のコミュニケーション上大切なことでもありますので、今度の第12号に引き続き今後も一層編集に意を用い努力してゆきたいと思っております。ご声援をお願いいたします。

それでは皆さんの一層のご多幸をお祈りし、かつ来る総会に多数の皆さんをお迎えすることを楽しみに、会報第12号の巻頭のご挨拶といたします。

東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会の一年のメインイベントである、定期総会と会員の懇親会を開催いたします。

会報の一面にもありますように、同窓生の親睦を図り、仲良く楽しい会員の頼りになるような会にするためにも、できるだけ多くの方々に参加されますようご案内申し上げます。

- 期 日 1990年(平成2年)4月13日(金)
- 時 間 午後5時 — 受付開始
午後6時 — 総会
午後6時30分 — 懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件
2. 予算決算の件
3. その他
- 場 所 目白 椿山荘
東京都文京区関口2-10-8 (Tel 03-943-1111)
JR 目白駅、地下鉄有楽町江戸川橋下車
- 会 費 懇親会費 8,000円(学生 3,000円)
1990年度会費 2,000円

なお、当日出席出来ない方は、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みをお願いします。

◇準備の都合もありますので、出欠の返事を同封の葉書で3月末日までにご返送下さいませよう申し上げます。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、恩師やお知り合いの方もお誘い合わせのうえ、多数のご出席をお願いいたします。

◇昨年度は、1989年4月14日に開催され、200名を越える参加者がありました。年毎に盛会になりつつあります。幹事の方々も新しく各期毎に増えました。前回は上回る参加を期待します。

◇年度会費2,000円は、会の運営のために是非必要なもので、ご欠席の方は同封の振込用紙でお振込み願います。

□1989年度定期総会報告

1989年4月14日、目白椿山荘において1989年度(平成元年度)東京桑野会定期総会が行われました。

長谷川輝氏(49期)を議長に選出し、会務報告、予算決算、会則一部改正および役員改選の件が審議されました。

会長には澤田会長が再選され、会長から後日、役員が別記の通り委嘱されました。会則第5条(役員)が「副幹事長5名以内」から「7名以内」に改正されました。

会 員 動 向

●叙勲

◇赤城 海助氏(43期)は、昨年秋の叙勲で名誉ある勲三等瑞宝章を受けられました。

東京桑野会への長年のご指導に感謝し心からのお祝いを申し上げます。

●佐藤 一男氏(65期)は日本原子力研究所東海研究所副所長から同研究所理事に栄転されました(9月1日付)。

●遠藤 実氏(64期)は、外務省国際連合局長から外務大臣官房審議官=国際貿易・経済問題担当大使に栄転されました(2月9日付)。時局柄ますますのご活躍を期待致します。

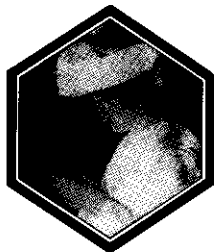
●増子 輝彦氏(79期)は今回の衆議院選挙・福島1区に出馬され、当選されました。今後の活躍を期待します。

■訃報 ◆車 貞女氏(52期車 元氏夫人)は10月29日逝去されました。同夫人は日本に帰化された車氏とともに、昭和40年代からわが国の無医村で長年にわたり献身的に活動されました。ご冥福をお祈りします。

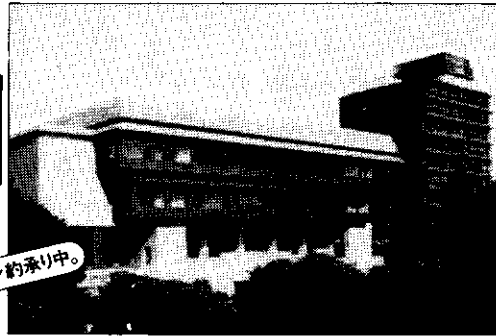
海外担当支配人
竹花則栄(55期卒)

CHINZAN SO
椿山荘
東京都文京区関口2-10-8
☎03(943)1111
◎藤田観光

- 大小18のご披露宴会場。
- 800名様までの日本料理・フランス料理着席ご披露宴。
- 庭園での記念写真も随時お撮りいただけます。
- チャペルでの挙式もできます。
- 最新機能の音響・照明設備。



只今、ご婚礼・ご宴会ご予約承り中。



華やかな「宴」のとき。

母校だより

□佐藤県知事来校

昨年7月15日、佐藤知事が来校され、安高時代の思い出やこれからの世界の動きについて約50分間講演されました。

□105周年紫旗祭

昨年8月22・23日の体育祭に続き26・27日の両日105周年紫旗祭が盛大にとり行われました。今回は特にジャーナリストの藤木高嶺氏を迎え、「明日の日本と世界を考える」というテーマで講演会が行われました。

□合唱部

県大会において金賞を受賞し、東北大会へ出場しました。全国大会出場は惜しくも逃したものの、東北大会において銅賞を受賞しました。

□野球部

春の県大会で準決勝まで進んだ本校は、夏の全国高校野球大会県予選に第4シードで出場し、準決勝まで駒を進めました。しかし昨年に続き、県代表となった学法石川に1対2で敗退し、甲子園出場はなりませんでした。

□剣道部

高体連県大会において、決勝リーグへ出場しましたが、本数差により惜しくも2位となり、全国大会出場はなりませんでした。一方個人戦においては1位から3位までを独占するという好成績で、2名が全国大会へと進みました。

□その他 水泳部、軟式テニス部、陸上部が、個人戦で県大会、東北大会を通過し、全国大会へ出場しました。

桑野会だより

□安積桑野会総会の開催

昨年9月10日、旧本館講堂において、安積桑野会(本部)総会が開催されました。総会は63期幹事の皆さんの司会により進行され、会長、母校校長の挨拶に引き続き行われた会務報告では、会長、幹事長等による各地の桑野会(支部)訪問の様子が報告され、本部、支部間の交流の深さが感じられました。続く講演会は、福島県立医科大学学長の佐藤司氏(53期)より、「人間そのすばらしきもの」と題し行われました。

□「安積歴史博物館」だより

◆前11号でもお伝えしましたが、安積の歴史の象徴である「旧本館」も昨年竣工百年を迎えました。「旧本館」は昭和61年より財団法人「安積歴史博物館」として運営されておりますが益々の内容の充実を計るため一昨年の11月に「同運営委員会」が発足しました。この趣旨にご賛同を頂けましたら会費10000円の納入をもって、運営委員会をお引受け願ひ、博物館の運営について積極的なご意見を賜りたいと思えます。

連絡先 〒963 郡山市開成5-25-63

財団法人 安積歴史博物館

Tel 0249-38-0778

◆竣工百年の節目を記念した特別展として「安積開拓と安積高校キャンパス百年展」が3月から10月まで6ヶ月の長期にわたり開催されました。安積百年の背景としての開拓史との関係等歴史がわかる素晴らしい展示でした。

□朝河貫一書簡集刊行について

われわれ安積の大先輩で世界的な学者であった朝河貫一博士の書簡集の刊行が、50期の柳沼弁護士、当会の土屋幹事長はじめ関係各位のお骨折りにより進められております。

国際文化会館の永井道雄理事長(元文部大臣)、早稲田大学の西原春夫総長および福島県の佐藤栄佐久知事の3氏が発起呼びかけ人代表となり、博士の出身地元、わが国における二つの母校の安積高校・早稲田大学、米国における二つの出身大学の関係の方々が発行発起人となっております。

この書簡集は86年急逝された故阿部善雄教授(50期)が委員長としてまとめられたものをうけて、編集委員会がこの程編集を終えられました。

編集委員会には故阿部善雄氏(委員長)はじめ、実に多くの安積の卒業生が委員として編集・執筆につとめておられます。永井陽之助氏(50期、東京工業大学・青山学院大学)、石川衛三氏(57期、茨城大学)、根岸久雄氏(63期、横浜市立大学)、中田 勉氏(67期、立正大学)、矢吹 晋氏(70期、横浜市立大学)、相楽 勉氏(90期、東洋大学)の各氏です。

早稲田大学出版部から、10月発行の予定です。A5版、約1,000頁、紙箱入りで頒価は20,000円の予定。発行部数1,000部の内500部は、東京桑野会を含む東京グループの努力目標です。頒布についても会員各位のご協力をお願い致します。

この書簡集の刊行に尽力されておられる柳沼八郎氏にご紹介の文を寄せて戴きました。

公認会計士 星 武典 事務所

ムアーズ・ローランド国際会計事務所所属

〒101東京都千代田区神田錦町2丁目5番地(KSビル3F)

TEL(03)291-8361 FAX(03)291-8465

星 武典(58期)

選挙の三バンは私有財産か

高田秀二 (42期)

総選挙が近い。政界はようやく若返り時代を迎え、例の三角大福中のうち残っているのは中曽根氏だけ、今期限りで引退予定の議員は、与野党合わせて56人もいる。この数は三年前の衆参同日選挙時に引退した議員のちょうど二倍である。

人数も多いが、田中、福田、鈴木三元首相のほかにも福田一さんのような議長経験者や閣僚経験者が顔を揃えているし、野党でも社会党の石橋前委員長、公明党の竹入前委員長、民社党の佐々木元委員長、共産党の村上前委員長も引退組である。これだけ大物議員がそろって引退するなど過去に例がない。

まさに“大正は古くなりけり”で、海部首相はじめ橋本蔵相、小沢幹事長らの昭和生まれが政界の中心になってきている。平成元年こそはまさに世代交代による転換期といってよい。

若返りは結構なこと、長老が後進に道を譲るのは当然と喜んでばかりはいられないのが日本の政界事情である。

前述の引退議員の半数以上が、息子や娘ムコや養子などの身内を後継者に指名しているのだ。まさに議員の世襲化の流行である。

自営業者やオーナー会社の世襲なら当り前のことかもしれないが、国民が選ぶ国会議員の世襲を当然とする風潮は、民主代議員制度の冒瀆であり、選挙制度の悪用ではなからうか。

現在すでに自民党では三人に一人は

世襲代議員であり、それが二人に一人となる日も遠くはなさそうである。

確かに議員諸公にとって、選挙の三バン（地盤、看板、カバン（資金））は不可欠のもので、選挙に勝つために非常な努力をして築き上げたものに違いない。苦労を重ねて築き上げたものだけに他人にアッサリ譲ったり、他の候補の草刈り場にされたりするよりは、自分の身内にそっくり譲った方が安心であろう。何十年もかけて築き上げた三バンだけに、そっくり譲られれば当選の確率は極めて高い。

引退する候補者が、できればわが子など身内に譲りたい気持ちは分らないではない。同時に後援会の幹部にしてみれば、身内が出馬してくれれば自分たちの“地位”も安泰である。

だが選挙の地盤は果して私有財産視しているものか。一步譲って多年にわたり築き上げた当の本人にとってはそうであっても、それを身内に譲っているものかどうか。選挙民は当の本人への支持は表明しても、その息子、ムコ養子などまでの支持は別の次元でとらえるべきものであろう。

息子やムコ養子などにも少しは議員として適格の人間がいるかもしれないが、大多数はおやじの威光でぬくぬくと育った苦労知らずの人間が多い。

票田確保の血の出るような初代の苦労も知らず、ぬくぬくと国会議員の地位を占める、そして四、五回当選すれば大臣のイスも転がり込む。最近大物政治家がいないの聲も二世、三世はんらんのせいである。

われわれ有権者はこのことを深く反省すべきである。（共同通信社社友）

安積の思い出について

本田登喜彦 (44期)

人は総じて青少年期には本来指向的であり、老年期に入るに従い、回顧的となる。今、人生の終末を控え、我生涯を振り返って見る時、安積の3年間は私にとって人生の重要な岐点であったと思う。

安積の新入生となった時私を魅了したのは庭球部であった。小学校4年生から始めたテニスには私にとって食事に次ぐ魅力であり、学校から帰っても自宅から50メートル程のコートから打球音が聞こえて来ると、もうじっとしていることが出来ずラケットを持ってコートに走り日没迄夢中になる日常であった。昼間全力を出し盡した夜、厳しいオヤヂを敬遠して勉強部屋に入っても勉強処か睡魔との闘いに過ごすのが大半であった。

こんな調子であるから成績も不良であるのが当然で1年～3年の進級は例年先生方の進級会議の候補者となった。幸か不幸か落第の憂目は見なかったが低空飛行の名パイロットであった。

そんな頃、3年の2学期に父とA先生のおはからいで或る先輩をアルバイトで住込みの家庭教師として迎えることになった。先輩はSと言われ野球部のピッチャーで当時の野球部を支えた一人であったが学業も優秀で学年で10位以内であった。先輩は私と同様、昼間は放課後部の練習に専念され帰宅は日没後であった。夕食を皆と共にした後勉強室に移り2人で机を並べ、先輩



株式会社

渡辺電務社

電気設備設計施工

本社 東京都江東区三好1丁目1番2号
電話 東京(641)0136番(代表) ㊦135
千葉営業所 千葉県千葉市都町2丁目5番1号
電話 千葉(0472)(31)9287番 ㊦280

取締役社長 渡辺豊定(58期)
(山姓沢村)
取締役副社長 土屋七郎(57期)

は私の遅れている学課を懇切丁寧に教えて下さった。然し昼間の疲れでモーローとなり勝ちではあったが、次第に多くの疑問が薄皮を剥がすように明確になって行ったように思う。

然し或る夜、私にとって生涯忘れ得ないショックを受けた。

例夜の如く10時過ぎに勉強を終り先輩と布団を並べて寝についたが、夜半フト明るさに睡りから目覚めると、先輩は独りで机に向っている。時計を見ると12時を過ぎている。詞をかけては悪いと思って様子を見ていたが何時の間にか又睡ってしまった。

翌日先輩に勉強の時間を尋ねた処、2～3時間は起きているとのことであった。それで初めて優秀な成績を維持している秘密を知ることが出来た。何んな優秀な人でもそれだけの努力があつたのであることを心から思い知らされたのである。

4年に進級すると間もなく、父の転勤で秋田中学に転校したが、4年生の1年間は庭球部の選手として遠征したり華かな生活を送ったが、今度は勉学に精を出した。

先輩との同居は極めて短期間ではあったが、私にとっては、かけがえのない経験であった。先輩はまた、青春の目を開いてくれた。2人で禁制の映画館に行ったり、荒池や開成山公園でボートに乗りながら女学生に声をかけて見たり、私にとっては全く驚異の経験であった。先輩は今も郡山市で功成つて静かに余生を送って居られる。

昭七会で小学校時代からの友人、安積時代の同級生と年に何回となく盃を汲み交しつゝ当時の通学の距離の長か

つたこと、先生方の思い出の数々を語り合うが、その頃の1日1日が今の私達にとって何れ程貴重なものであったかを痛感する。

朝河博士書簡集の 刊行にかかわって 柳沼八郎 (50期)

わが安積が生んだ世界的歴史学者朝河博士の偉大さは、今さら多言を要しない。とはいえ、博士のような深い人生哲学と高潔な人格、熱いヒューマニズムに裏打ちされた大いなる学問的業績、それに世界平和と祖国日本のための積極的言論などの根源と形成過程を正しく理解し、朝河精神の真髓に近づくためには、どうしても、博士自らが公私にわたって事ある毎に、筆をとつてのした書簡そのものに接することが必要であり、もっとも近道である。

今回の書簡集刊行の意義はこの一点にあるが、『遺品の展示会のあと、なすべきことは書簡集の刊行である』とは、学究生活の多くを「朝河研究」に傾けつくして、4年ほど前に急逝した安中同期の学友故阿部義雄教授のいわば遺言である。

彼は、そのライフワークともいふべき、『最後の「日本人」朝河貫一の生涯』を岩波書店から出したのち、その素志を貫くべく国内における第二の母校早稲田大学の社会科学研究所に根拠をおく「朝河貫一書簡集編集委員会」を組織して3年、国公立の各大学から30数人の有能達識な学者・研究者からの理解と協力を得て、着々編集作業が進められていたさ中、博士の享年

より8年も若い66歳で、他界した。

私の手許には、戦後間もない昭和28年10月に三越本店で開かれた「遺品展の葉」をはじめ、同30年の「著者刊行会」のこと、阿部君とともに進めた遺品と書簡の本格的収集（その過程には一部法的事件性を帯びていた）、阿部君による整理分類表、その主要なもの東京（国際文化会館と早大）、安積高校、二本松市などにおける展示会と、博士の顕彰事業団の構想についての資料などがある。私の今度の刊行事業とのかかわりが、長い前奏曲を伴っていることを想う。

今回刊行される書簡集は、朝河研究の貴重な文献であるとともに、朝河精神をじっくりと学ぶ教本的性格をもつ。したがって、この一本を手許に置くことは、いわば同じ安積に学んだ同窓が、この言行一致の国際的知識人を今の世はもちろん、孫子の世にも誇りとする証そのものであろう。

昨年8月10日の二本松市における、刊行趣旨の説明会（矢吹と私が説明員、土屋も出席）は、さすが佐藤知事のお声がかかりだけに、県下の教育行政面をはじめ民間団体を含む有力な指導者が参会され、熱気のこもった旗上げの会となった。その後は安中・安高・早大の同窓関係者を含めた地元・オール福島（福島・郡山・二本松の3市の市長、教育関係機関を中心に）と、前述の編集委員会、早稲田大学当局および博士につながる国際関係者、東京桑野会などを包摂したオール東京本部との密接な連携のもとで、刊行事業の発起と刊行会の結成発足に向けた手続きが進められてきた。この間これら準備の過程

株式会社 東京シンクサービス

- 業務 特許公報の抄録・翻訳、工業技術の指導・調査
- 特色 高齢者の雇傭
(全従業員91%が60才以上、70才以上は54%)

〒101東京都千代田区内神田2-13共同ビル
電話 (03)254-5805
代表取締役 鎌田 正二(43期)

で、私たち準備事務局の安積出身者（矢吹・土屋・柳沼）は、東京桑野会の澤田会長から、懇篤な御示唆を頂戴して、事に当たっている。刊行会は3月11日に発足し、発刊は10月、11月には出版記念の祝賀会が東京と地元で盛大に開かれるだろう。その間、限定予約出版であるので、会員の募集が進められる。この応募につき、各界の有力者を擁する東京桑野会に多大の期待が寄せられている。

この意義ある事業に格別の御理解と御支援を願う次第である。（弁護士）

東京桑野会囲碁部会風景 （囲碁部ベレストロイカ）

高橋勇夫（44期）

平成元年最後の定例碁会は予め会員に知らせたが、年度末でもあり、「参会する」との返事は少なかった。沢田会長から電話で「集まりますか」のご心配でしたが、「集めますから」とご返事申しあげた。いよいよ師走に入った、2日土曜日、午後1時から、日本棋院、八重洲支部内、何時もの所である。

私は当責任者として、何時ものように、お昼直後に入場する。今日は見馴れない顔の棋院の「OL」からいきなり、「会員さんですか」と詰問される。「東京桑野会囲碁部の定例碁会」ですと答えると「何人ですか」と鋭い。「今日は6人です」OLは予約席の札を3枚私に呉れた。土曜日の棋院は大変に込むので棋席も予約席で確保しなければならない。会場の中央で一番見易い場所に予約券を置く。待つこと久しく、一番に佐藤三段が次いで沢田会長五段

が来られたので、早速に沢田五段対佐藤三段の対局戦が展開。相次いで富塚三段、鈴木二級に加えて、偶々に私のNKK、OB 朋友佐藤二段を加えて、丁度6名3組、夫々に火花を散らして激斗、更に敢斗、沢田会長五段は安積中学剣道部のキャプテン、その通り碁に於ても上段布石の構え、開き、そして敵中深く、打ち込みの鋭さは測り知れない。又佐藤三段も慎重なる作戦の展開と攻撃への熟慮猛攻と、両者の斗いは正に龍虎相打つの展開となった。勝敗に非ず、一堂に会して友誼を交すことに意義あり、吾が囲碁部員の信条である。

院内は棋友で満席、熱気が溢れておる。交互に攻守を換えて数番の斗い、5時近くになり、打止めとする。ビル外に出ると、街のネオンが賑しく、襟を立て、行き交う姿は慌しく動く、毎度乍ら、駅地下食堂街の洋食店に入る。6人差向へに座り乍ら、斗いのあとの反省談義に花が咲く。会員20名でも例会に参加できるので、先づ1/3の6、7名、現職を持つ持たぬは別だ。優先して参加する意志が無ければ、東京桑野会も繁栄進展は期せられないようだ。之を陣頭指揮して推進するのが幹事への期待であり、使命とするところであると、当碁会を通じて感じて居る。

（元NKK労務部管理職）

モンティセリに熱中した日本人

谷本滋朗氏（63期）を紹介したフランス、プロヴァンス地方の最大の日刊紙ル・メリディオナル誌からの転載

モンティセリの作品が火星で見られるなら彼はそれも見に行くだろう。

彼は東京も、家族も、税理士の仕事も、友達も、すべてを忘れてモンティセリについて話す。ことごとく左様で谷本滋朗氏はアドルフ・モンティセリに本当の崇拜を誓っている。

ずんぐりして、雄弁で、晴れ晴れした顔つき、その眼鏡の奥にいたずらっぽい眼、すべての日本人と同様な礼儀正しき、谷本滋朗氏は昨日の午後、スーヴール・スタメニア氏と祈禱をする祭式者ヨセル・カー氏が引率する「モンティセリ友の会」の人々と一緒に、サント・ピエール墓地にある巨匠モンティセリの墓にぬかずいた。

モンティセリの専門家であり、彼の友人にもなったスーヴール・スメタニア氏の出迎えを飛行場で受けながら、谷本氏は、初めてモンティセリの絵を見た時の熱狂ぶりを説明した。

「それは4年前だった。」彼は云う

「私は東京で小さい作品“公園のシーン”を見た。そして私は直ちにその魅力にとりつかれた。私は彼のテクニック、彼の色彩、彼のロマン主義……が好きです」と。

そのあとすぐに、1886年に死んだ画家を心の底から理解するために彼はフランス語を学び始めた。しかも今では彼は大変上手にフランス語を話す。

彼は耽美主義的な心の持ち主であり彼自身画家でもあるので——国境を無視する国際的、世界的な特徴は共感を確立している。——谷本氏は今や、この偉大な色彩画家を日本中に知らせることに努力している。

彼は断言する。

「日本では実に多くの画廊がある。我々は印象派の画家を大変好んでいる。

騒音・振動・超低周波

- 現況調査 ○予測計算 ○防止対策計画
- 消音・防振装置の設計と製作
- 実績 エネルギー・運輸 金属・化学
電子・機械 繊維 機械 紙パ
自動車 造船 食品



東昌エンジニアング株式会社

〈計量証明事業登録第507号〉

〒108 東京都港区港南2-12-26 港南パークビル

電話 03-471-5891 代表

代表取締役 鈴木健生（第48期）

私に関して言えば、私はよく展覧会に行った。そして私は、ヴァン・ゴッホとセザンヌが尊敬したモンティセリの絵に対して、美術評論家の関心を引かせようとしている。」

4年たって谷本宏朗氏は東京で「モンティセリ友の会」を設立し、巨匠の作品の良いコレクションが出来上がった。「全部で50点です。」と彼は明かした。その内、約30点は美術館に贈る以外、決して手離さないだろうとつけ加えながら。

彼は“Les Baigneuses (水浴)”、“Portrait de Ludovic Mian a 9 ans (9才のルー・ヴィック)” “Calanques a Cassis (カシス湾)” “La Terre sous la neige (雪の積もった農園)” “Le Port de Cassis (カシスの港)” “Rendez vous chasse (狩猟の会)” や、褐色の背景の上に色鮮やかな白や赤の花束が置かれた有名な絵等を所有している。

「これらの作品を私は1986年4月に旅行した時東京で鑑定した。これらは本当のモンティセリである。又私はTVカメラの前で“Las Barques de Cassis (カシスのボート)”の絵を洗った。」スーヴール・スメタニア氏は思い出しながら云った。

「私はお金が目的で集めているのではない。ただ、喜びのためだ。私の願

いは非常に深遠だ。それはモンティセリを私の国中に知らせることだ。」この男は宣言する。これはつまり、モンティセリに対する熱烈な愛情であると同時に画家の生れ故郷、マルセイユに対する尊敬でもある。

(ル・メリディオナル誌1989年4月18日付)

●谷本宏朗氏 (63期) の紹介

協会「モンティセリ友の会」を設立して会への入会を勧めておられます。モンティセリは、欧米では色彩の魔術師として評価が高くセザンヌに賞賛されゴッホに熱愛された画家です。

谷本氏はそのモンティセリの世界一の収集家で、「週間朝日」(ゴッホがマネた異色画家「モンティセリ」収集世界一 88/6/10)、「週間新潮」(秘蔵の一点 89/3/23)、「朝日新聞」(7人のサムライ 美術コレクター 89/4/22)等々にも大きく紹介されております。

昨年10月には明治記念館で約70点の作品を飾って一日だけの展覧会を開催しました。

会員には数々の特典の他、巨匠の絵を楽しみながら人生や文化を語り合うサロン「フルール」が提供されます。

同期の古川大使も文化の催しでオマーンのお話をされました。

フランスの新聞から氏の紹介記事を転載させて戴きました。

照会先:谷本税務会計事務所(Tel 664-6711)



アドルフ・モンティセリ
「林の中の婦人たち」

中国からの邦人救出作戦を 指揮した橋本逸男さん

橋本逸男氏 (79期) の紹介記事

「日常的にまったく問題がないところで未曾有のことが起こった。しかも日本人が4000人もいた。情報は錯そうしており、われわれも正しい情報なのかどうか、ハッキリ言えず、残念な思いをした。ただ邦人帰国作戦では一人も負傷者を出さずにすみました」

人民解放軍が民主化デモを武力鎮圧した4日未明以来、徹夜に近い勤務が続いただけに疲労の色は隠せない。希望者のほとんどが帰国したが、外務省、大使館には「対応が遅れた」などの批判も相次いだ。

「至らなかつた点は素直に耳を傾けたい。しかし私は大使館員がよくやるとほめてやりたい。命がけでやってくれました」

天安門広場に行った書記官は隣にいた中国人学生が撃たれて死んだと涙声で報告してきた。大使館がチャーターした20台のバスは北京市内の20以上の大学を回り、空港まで延べ55往復、960人を運んだ。

「外国に行くことは日本政府の力が及ばないところに行くということ。おこがましいかもしれませんが、自分の身は自分で守るしかない。警戒心の薄さは明らかに海外ではマイナスになるのです」

海外渡航者は年間840万人。邦人が関係する事件・事故が激増しているだけに安全管理の必要性を繰り返し訴える。

「うまくいって当たり前の仕事です



東北一円足まめに……。ふるさと商いは心です。
世界のトップファッションをネットワーク。

ふる里の肌ざわり 采女印製品
お店の繁栄 豊かな暮らしをリードする

総合衣料問屋 **采女** 株式会社 **金大**

代表取締役社長 小針 良雄 (67期)

福島県郡山市喜久出町卸1丁目68の1
TEL (0249)59-6464

が、うれしいのは“大変お世話になりました”と電話や手紙がくることですね。いかつい顔に浮かんだ照れくさそうな笑いが印象的だった。(1989/6/14付 サンケイ新聞「人」欄より掲載。)

なお、橋本逸男氏は1989年9月25日付で外務省邦人援護課長から、内閣審議官に栄転されました。

安積を思い
そして英語を思う
齋藤誠 (81期)

毎年椿山荘で開催される東京桑野会の総会に出席するようになって、かれこれ6～7年経つと思う。総会に出席するきっかけは、私の母校である法政大学大学院の一年先輩で、新東京国際空港公団に勤務する齋藤照男さんの結婚式に出席したときに始まる。披露宴には建築学科で構造力学と建築数学を教えてられた半谷裕彦先生が出席されました。現在先生は、先生の母校である東京大学生産技術研究所の教授をなされ御活躍であります。半谷先生は安積高校の先輩であることもあり、当日は安高時代の話しに花が咲きました。先生は度々東京桑野会に出席されており、先生のお勧めもあり私もそれ以後会に出席するようになりました。東京での生活は既に20年を超え、毎年椿山荘で開かれる東京桑野会に出席することで、同じ学舎に学んだ諸先輩、同級生そして後輩達と様々な話しをすることは年一回の楽しみの一つである。この事は出席されている人々の共通の思いではなからうか。

2年前の'88年8月14日、安積高校81期の同窓会が磐梯熱海温泉の紅葉館で開かれた。幹事からは、卒業後20年の節目ということで計画したが、卒業後かなりの年数を経ており何名同窓生が集まるか不安があったと聞いている。幹事の不安をよそに、先生7名同窓生90名が出席した。東京からは私の記憶では、大久保時雄(協栄産業)、近野広(立花証券)、佐藤信夫(気象庁)、村上公信(流山中央高校)、渡辺修(間組)、渡辺龍一郎(ビーコプランニング)、渡辺朝紀(JR中央研究所)等が出席した。先生方もなつかしい顔ぶれが揃い、当時の学生主任であった柳沼弥重先生も元気な姿で見えられた。先生方の髪は白くなったり、薄くなったりしたもの昔教壇に立てられておられた当時の気概と現在のそれとは少しも違ってないなと感じた。

81期の担任はなされてなかったが、英語のリーダーを受け持っていた柿沼先生がわざわざ同窓会に顔を出されていた。私も先生からリーダーを教わり、先生の授業は特に印象に残っている。先生は上智大学の英文科を出られ、英語教育一筋に取り組みられて現在も現役で御活躍と聞いている。東京で学んだ英語を我々におもしろおかしく教えて、英語のおもしろさを身をもって教育してくれた。私も仕事柄海外出張の機会があり、安高で学んだ英語を実践することが度々ある。昨年の夏やはり仕事でメキシコシティへ行った時、現地のゼネコンの技師長をしているインフェニエロ・ドミンゲス氏(メキシコでは技術者の場合、名前の前に技師を示すインフェニエロを付けて呼ぶ)と打ち

合わせを行なった。ドミンゲス氏はアメリカの大学に留学し、流暢な英語を話し、私は彼の英語を聞きとるのは容易ではなかった。通常第二外国語を話す者同士が英語で会話する場合は、比較的聞きとるのが容易であるが、今回は閉口してしまった。現在はヒアリングを中心に英語に取り組んでいる。

(三井建設備設計本部構造設計部設計長)



「安積がそこにないから」

柿沼雄二 (95期)

大学に入ってから得た趣味の一つに登山がある。北岳、甲斐駒、剣、針ノ木……それら北ア、南アの峰々は僕を魅了し、今も心に生き続ける。夏山に一步踏み込もうものなら、夢想と冒険の心の旅路が目の前に開かれ、都会の雑踏を離れた偉大な自然だけが持ち得る高潔な美は、生命の開放と歓喜と静謐を味わわせてくれる。だが、日常、それらは悲しいまでの遠さだ。頑として屹立する泰然自若としたあの偉容は

索道施設の総合設計施工管理

豊富な経験、最新の技術、万全のアフターサービス

東京索道株式会社

本社・工場/横浜市金沢区鳥浜町12-9

☎045(774)7111(代)

札幌営業所011-232-5382/仙台営業所022-267-0544
新潟営業所025-241-7147

- ゴンドラ
- スキーリフト
- ロープウェイ
- ケーブルクレーン

代表取締役社長 横尾 稔(第66期)



佐藤静司画

ここにはない。何故山に登るのかという問いに対して、「そこに山があるから」という答えは有名だが、僕に言わせると「山がそこにはないから」なのである。安積を思う気持ちもそれに似ていると言える。安積の持つあの雰囲気、それは都会の何処にある筈もなく、現代では稀と言えると思う。桑野会という強い団結力を持つ同窓会もまた然りだ。自分の生命に若々しさと勇らしさと純粋さを忘れさせぬものが安積であり、それは自分にとって自己への誠実の象徴なのである。本当に確かな時を生きた。空虚な日常に埋もれがちになる程僕は安積を意識するように心掛ける。

安積で得たものは大きい。友達はまた実にいい。“何処に出しても恥ずかしくない”ではなく“何処に出しても恥ずかしい”とさえ言われるが、皆との談論風発を通じ、いかに自分が鍛えられ高められたことか。「俺が泣くのは唯一度、男が結んだ友情さ」と、安高小唄にもあるが、まさにそんな付き合いをしてきた。教室の机の落書きに「恋人は後からできる。親友は今しかできない」とあったのも印象的だった。今、皆は各々の持ち場で頑張っている。だが、安積という一つの元に還り、そこで本物の共通の体験をわかり合えるというのは実に素晴らしい。

安高時代の思い出は枚挙にいとまがない。優等賞があると聞いていたが、早くに見切りをつけ、頭を使う賞ではなく体を使う賞、すなわち皆勤賞を狙うことにしたのは、自分の判断力の正しさを物語って余すところがない。清水寺の舞台で校歌を歌い、夜を徹して語り合った修学旅行。旅館の夕飯に鍋が出て、皆、定規を取り出し、分配する肉の長さを測っていた。それほどの几帳面さを他で発揮できれば、と惜しむ声もあった。それでも、領海侵犯など言い争いつつ食べ、これだけ白熱して頂戴すれば、旅館の方たちも本望だったのではなからうか。三年の夏は野球応援。初の甲子園出場に王手をかけたのだから。試合の帰り、或る友は全ての信号を無視だったようだ。涙でくもって見えなかったらしい。

安積だけは、平凡な男子校や予備校化された受験校のようにはなっていないと思う。自然破壊が進み、俗化された山になっては悲しいし、足を運ぶ気は起こらないだろう。北ア、南アの山々が、時代を経ても依然として悠然と聳えるように、恋しくて戻った時、「そうだ、これなのだ」と実感し、頷けるような、そんな存在であり続けてほしいと願っている。

(帝京大学医学部在学中)

思いつくままに

根本 匠 (82期)

昨年久しぶりに東京桑野会に出席させていただきました。地方への転勤もあり、5年ぶりくらいだったでしょうか。桑野会では慣例の安高の応援歌もでたわけですが、久しく歌っていなかっただけに非常に懐かしく感じました。安高入学時の我々の最初の安高たる洗礼は、先輩のやじと怒号のなかで練習する応援歌であり、応援歌は安高のきずなのひとつの象徴のように思います。安積の友人の結婚式では必ず応援歌を歌うのが習わしになっており、古い話ではありますが、私の結婚式も同じ建設省の三本木健治先輩(69期、前河川局次長 現住友信託銀行顧問)の音頭により、紫の旗、天地の正気でフィナーレとなりました。

安積のきずなと言えば、社会に出ても縁があり、他省らの先輩、後輩を含んで霞が関桑野会も沢田悌東京桑野会会長を会長に、断続的ながらできてから10年程になります。同じ建設省では、岩堀瑋雄先輩(71期)とはつい最近まで、菊田利春先輩(81期)ともかつて同じ課で一緒になり、とくに三本木先輩には直属の上司としてご指導いただきました。数少ない安高の先輩全てとともに仕事をしたことになります。

安積を卒業して20年、当時生まれた赤ちゃんが今年成人式を迎えました。大学紛争華やかな時代で、安高生(安女生を含む)による初めてのデモもありました。激動の時代と言われていま

有利さて選ぶなら

中期国債ファンド

1 カ月複利の効果で
いつでも一番有利



かい せい
借成証券

本社 東京都中央区日本橋兜町13-2
☎ (666) 1431 (大代表)

取締役企画部長 近内靖夫 (第69期)

したが、その後時代も推移し、情報化、高齢化、ソフト化、成熟化、国際化、都市化等我が国の経済社会にはいくつかの新しい潮流ができています。私の仕事の関係で言えば、現在、建設分野をめぐる日米貿易摩擦問題の渦中にあり、我が国の“国際化”を実感しています。我々の想像する以上に日本は世界の経済大国となっており、90年代は、歴史、文化、社会等の異なる国々との国際的な協調、経済大国にふさわしい役割、行動がより一層求められるものと思います。

また、仕事から“都市化”という観点から、安高のある郡山市をみれば、その立地条件、豊かな都市資源から今後更に発展するであろうことは論をまたないところです。それだけに街づくりへの確かなかじ取りが従来以上に要請されるのではないのでしょうか。現在日本の各地で個性ある魅力ある街づくりへの創造的な取り組み、主体的な試みが活発に行われ、地域間競争、都市間競争のなかで、地域の知恵、主体性が問われる時代になっています。安積出身の佐藤知事を生みだした郡山も将来を見据えた確かな展望のもとに、大きな視野から、水準の高い将来の50万都市にふさわしい都市形成に向けて精力的に取り組んでももらいたいと期待しています。

(建設省建設経済局建設業課建設市場アクセス推進室長)

「冬の東京」

小野崎敦 (97期)

東京には、冬ほど似合う季節はない。秋もぐっと深まって、家の近くの井の頭公園の木々の葉も木枯しに舞うころになると、毎年、そんな感慨が私の中に湧いてくる。

この会報が桑野会の方々の手元に届けられるのは春のこととなるだろうから、多少時期を外してしまうけれど、一般的な話として語らしていただきたい。

冬ともなると、動物たちはそれぞれのねぐらに籠もるものあり、あるいは木々はその葉を落とし、あたかも彼らは生命活動を停止してしまったかのようになり、静かに、静かに、来たるべき次の季節を待ちながら過ごす。「静寂」とか「孤独」とかという言葉があてはまるそんな季節である。また、そんな木立の枝の間から、とても澄んでどこまでも青いほんとうの空が東京にやって来る。この空は、冬の東京を演出する重要なファクターであろう。

いきものたちの殆どが影を潜めるその一方で、人間たちばかりはちゃかちゃかとせわしなくしている。

クリスマスが近づくころになると、街のショーウィンドやイルミネーションが一層華やかに美しく着飾る。街角のところどころにあてがわれデコレートされたクリスマスツリーもとてもきれいだ。してみると、人の活動、もしくは「人工」といったものは、冬の東京のキーワードなのかもしれない。

神保町から秋葉原のほうへ歩いてみ

ると、その途中にくぐる中央線の高架をつくっているレンガの壁がなぜだかとても暖く感じることもある。また、夕暮れの神田川に行く台船のトントントンというリズムカルな音が妙にせつなく聞こえたりもする。

すっかり停止してしまったかのような「自然」と、対照的に「人工」が際立つ。そこで初めて、私たちは「自然」を認識し、季節を見つめる。「自然」と切り離されて、突然一千万人は孤独になる。

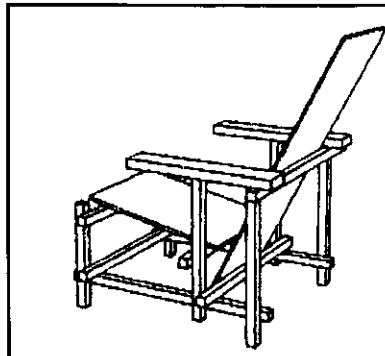
ところで、温度というものは、そんな私たちに季節感を与えてくれているのかもしれない。夏に比べ、冬のほうが、外の気温と室温の差が大きくなることが多い。10℃以上になることもしばしばである。そうしたことが、人の生理により強く季節を訴えてくれるのだろう。

気象現象といえば、雪というのもそうした意味で季節を感じさせるものであろう。

しかしながら、雪というのは人々にとってそれにも増して格別のものである。同じ気象に関しても風神や雷神はいるけれども雪神はいない。それに対応するのは雪女になるだろうか。一方は畏れるべき神なのに対して、一方は恐れるべき魔性である。

人と自然とが隔断され、際立ち、そして見つめ合う。冬は季節感の乏しくなった現代の都市生活において、唯一それを味わえる時期なのだろう。日々のなかで忘れかけている季節感をくすぐられる、そんな季節だから冬の東京は美しいのかもしれない。

(地方職員共済組合本部事務局勤務)



- 婚礼家具
- リビングセット
- リビングボード
- ダイニングセット
- ハウジング特注家具

快適な暮らしに役立つ
応接・収納セット専門メーカー



マルクワ家具株式会社

株式会社 マルクワ

本社 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360 0480(32)1131
 卸センター・ショールーム 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360 0480(32)1131
 杉戸工場 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360 0480(32)1131
 自宅 埼玉県北葛飾郡清地1-5-18 FAX 32-1139

常務取締役 橋本大三郎 (66期)

払ったのに、厄は

丹治則男 (81期)

薄暗い本堂に座って、本気で考えました。『酒は、ホント、ほどほどにしような』と。煤けて、その分だけ凄味を増した御本尊と、七人がかりで読経してくれているお坊さんを前にしてでした。

安積を出て22回目の春を迎えます。数え42歳。勤務先の人たちに勧められて『厄払い』をしてきました。風邪ひとつひかず、同僚からも“不死身”と言われていたついこの前までを思うと信じられないことでもありました。

いま、東京・立川にある支局に働いています。総勢16人。この人数で旧三多摩地区をカバーします。平均年齢37.25歳。ただし、事件や事故を追うのは大学を出て5年以内の若い人たちです。大きな声を出したり、つつい『バカヤロー』と怒鳴りつけてしまったり。だから、夜ともなればカウンターでグラスごと呑みこむような酒浸り。群れて飲み歩く一団は、ほかの客たちから“産経一家”と呼ばれているそうです。もともとの酒の強さでは私が一番と思いがかり、こちらは24.66歳というヤングと一緒にやっていたのですから、まあ当然の結果だったのでしょう。一昨年は入院して一カ月の欠勤、昨年は葉をいつも持っていなければならぬ破目になってしまいました。

身体に自信がなくなるのと比例するように、精神も硬派から軟派へと移っていくのでしょうか。書かれる側のこ

とが、頭から離れなくなりました。三年前、東京弁護士会が『取材される側の権利案』をまとめました。当時、裁判を担当する司法記者クラブにいた私は、同会の『報道と人権部会』の方々と話す機会に、今思えば、ずい分と言いたい放題のことを主張していました。いわく、『取材する権利・書く権利は、未だ確立されていない』『成長途上の権利に一定の枠をはめようというのは、その権利を否定することにもつながりかねない』『取材する側よりも、今必要なのは捜査する側の人権軽視に対する取り組みのほうである』等々。現在、支局の次長＝と言うよりデスクと説明した方が判り易いでしょうが＝である私には、そう言って指示しきれない思いが強くなってきています。

『当事者の話を聞いて来い』『匿名記事は記事とは言えない。なぜなら、新聞はひとつの歴史の記録なのだ』と、二年前には言えたはずのことが、言えなくなっています。学生時代、新聞は、大局的でないだけになおさら、その時の“感覚”を生々しく伝える“記録”だと思ひ知らされていたのに、です。

誰にも、自身以外を枠にはめこむ権利はない。誰にも、自身以外に命令する権利はない。そういうことに、ようやく思い至ったということかもしれません。それでは、しかし、新聞はつくれません。取材することはできません。

実年と若年の狭間で、絵に描いたような中間管理職は、また、酒に手を伸ばしてしまいます。自身に命令することもできずに。(産経新聞多摩支局)

「PR」

山田正文 (95期)

「最初にアメリカが認めた…」4畳半の部屋の片隅にある小さなテレビからコマーシャルが流れてくる。早いもので、私がこの仕事について既に丸2年になります。最近テレビを見ても、新聞で読んでも特許や知的所有権と言った文字を知らず知らずに捜していることが多くなり、自分もすっかり特許の世界に馴染んできたなあと感じる今日この頃です。しかしそれにしても、最近の特許関係の記事をよく見かけるようになってきました。技術進歩の早い世の中で、やっと特許も市民権を得てきたのかと喜んでいます。ところが一方、「実用新案特許」や「製造特許」など、一般の人に特許は果たしてどの程度理解されているのだろうかと思わせるものも多く見受けられます。

みなさんは、特許という言葉を知って何を連想するでしょうか？ 大方の方は、「専売特許」、「東京特許許可局」といったものではないかと思います。またマコマーシャルで「〇〇で、特許を取得」などと宣伝されたものもみると、きっといいものに違いないと考えられるのではないのでしょうか？ (私も特許の審査を実際に行うまでは、そう思っていました)

現在の特許は、特許庁で過去の文献に同じものがあるかどうか、違う点が容易に考えつくものかどうかを検討され、これ等をクリアしたものに権利が付与されています。もちろん、この他

弾性無限への挑戦

工業用ゴム製品の製造



株式会社朝日ラバー

代表取締役社長 伊藤 巖 (65期)

本社 埼玉県川口市赤井2丁目13番11号 ☎334
埼玉工場 電話0482(85)2251(代表)

福島工場 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地
電話0248(53)3491(代表) ☎969-01

にも商業上の利用性など審査の対象となるポイントはありますが、既に公知となっていた事実が証明されないものは、特許となるための一つのハードルをクリアしたことになり、この様な過程を経て特許となる発明は、必ずしも一般に思われているようなイメージのものであるとは限らないのです。では、一般に考えられている特許に対するイメージと、実際の特許にギャップが生じるのはなぜでしょう？これは、特許権付与の基準や仕組みなどその制度が一般の人にはあまり良く知られていないためでしょう。

特許は、国王・統治者などによる営業・製造などに対する排他的権利の付与がその起りです。そして14世紀頃ヨーロッパにおいて innovator に対して特権が付与されるようになり、15世紀にヴェニスで inventor への特権付与が発明奨励の為に行われるようになります。これが最初の「特許法」で、以後ヨーロッパ各国に特許制度が広がると共に、現在のような形態へと形作られて行きました。この様に、その権利付与はそもそも絶対的権威者による、主観的な判断によるものであった訳です。従って、権利付与の判断基準もその権力者により、恣意的に決められたといえます。

この様にして始まった特許制度はその後産業革命や市民革命により、社会、産業の構造が変革するに伴い、その本来の目的である工業奨励と公共の福祉に沿う形で施行されるようになります。そして現在では、先の様にして各分野毎の専門家により判断されるばかりで無く、3 審制に準じた制度や公衆審査

制度により、基準の不変性が担保されるようにしながら判断されています。しかしながらその一方で、一般には権利付与の仕組みやその判断基準などがほとんど知られておらず、このため特許に対する関心もあまり高くなく、現在でも一般の人は、単に漠然と国によってよい発明と認められたものという認識のままではないでしょうか？このために、実際に特許を付与されるものと一般に考えられているのに隔たりができ、先のギャップを生じているのだと思います。

このギャップを埋めるには、一般の人が発明や特許に接する機会を増やし、特許制度を馴染み深いものにし、関心を高くしてもらうことが大切でしょう。このため発明、特許、特許庁などのPRをもっと積極的に行う必要があるのではないかと思います。手初めにまず次の様なものはどうでしょう？

- ・4月18日の発明の日のイベントを増やす。(現在は発明の日があること自体知られていない)
 - ・現在の発明工夫展を企業のスカウトを取り入れたコンテストにする。
 - ・アイドルを使った車内広告などで特許庁の施策PRをする。
- 桑野会の広報活動をしなが、図らずも仕事でのその重要性を再認識しました。(特許庁審査官補)



村上氏が釣った6.7 kgのオナガダイ

私の釣り遍歴

村上昌弘 (85期)

“浜崎伝助、通称ハマチャン”なる人物をご存じであろうか。ビックコミックオリジナルに掲載されている釣りの漫画の主人公であり、映画化も最近されているのでご存じの方も多いと思う。このような人物はどなたの回りにも一人や二人いるはずなのに東京桑野会では“ゴルフ”の話は聞くが“釣り”の話はほとんど聞かない。私自身、一応釣り気違いのカテゴリーに属す人物であると自負している。そもそも大学時代に東大釣友会に入部したのも安高とのつながりが大である。浪人中、国語の高橋昭平先生のお宅にお邪魔した際、2年先輩の小川氏が来ておられ、“東大には酒飲んで、麻雀して、釣りをするバカなクラブがある……”という話をしておられた。この話が異様に頭にこびりつき、入学ガイダンスの際、わざわざ“東大釣友会”を探し出し入部した。当時は溪流釣りに熱中し、岩魚を求めて北海道の山奥、秋田の白神山地、山形は朝日連峰等々の大げさに云えば“人跡未踏”の溪流を這いずり回っていた。その後、農学部水産学科に進学し、魚との縁は切っても切れないものになった。ここでまたまた小川氏の登場となる。水産学科に進学してくる女性と云うのは極めて稀なのであるが、一緒に進学した女性が小川氏と学生結婚すると云う。それまで私は小川氏とは全く付き合いがなかったので非常にびっくりした。縁とは奇なもので

各種貯油槽・圧力容器・製缶・化学プラント設計施工

興和鐵工株式会社

福島県郡山市富久町久保田字大久保63

電話 郡山 (0249) } 22-3840
 } 32-3292
 FAX (0249) 33-6104

代表取締役

荒井 孝一 (78期)

ある。彼女はプランクトンの専門家であり私もプランクトンの成分をいじっていることから彼女とはたまに顔を合わせるが、旦那とはその後お会いしたことはない。新婚旅行も釣りであった。北海道に行ったのだが、朝は3時、4時から夕方まで釣竿を振っていた。よく飽きられなかったといまさらながら感心する。いまでもうちの冷蔵庫にはその時釣った干物と化した記念の岩魚が入っている。水産学科に職を得てからは時間もないことから溪流釣りを諦め船釣りに転向した。最初はキス釣りなどで我慢していたが、釣友会の後輩(残念ながら安高の卒業生ではない)が研究室に来てからイカ釣り、根魚釣りにも手をそめるようになり私の小さな書斎は釣り道具であふれるようになってきた。とはいっても2カ月に一度行けるか行けないか程度である。“道具ばかり揃えても行かないでしょうがないじゃない”とは研究室の教授の言である。

今日もかの学生が釣り新聞を片手にドアをノックする。“先生、早川でヤリイカが釣れてますよ。アラでもです。今度の週末あたりどうです。”……電話がなる。……“村上君ちょっと”……“お呼ばれ”=仕事=週末つぶれ”……またしても同じ等式が成り立ってしまった。寂しい日曜釣師である。

- 1) アラ…非常に旨い魚である。庶民の口には釣りに行かない限りまず入らない。
- 2) お呼ばれ…教授室に呼ばれること。必ず仕事が増える。

(東京大学農学部助教授)



ライトアップのイメージ

もっと光りを！

母校旧本館のライトアップ

水口 禎 (67期)

私たちの母校の旧本館と奇しくも同じ日に完成したパリのエッフェル塔をはじめ、ヨーロッパなどでは人々の集まる広場や歴史的建造物である教会、市庁舎等に夜間光をあてて浮かび上がらせた素晴らしい光景がみられます。東京タワー、瀬戸大橋、横浜ベイブリッジなどわが国でもライトアップが多く行われつつあります。

今まで視覚的には利用されていなかった夜の空間に、光の演出によって新しい空間を造り出して行くのが「ライトアップ」ではないかと考えます。安積のシンボルである旧本館のバルコニ

一部分を中心に前面の下方から照明をあてて建物を浮かび上がらせる。

未知の体験といえ少しオーバーかも知れませんが、夜の桑野路にそれを眺める人々にはきっと新しいイメージを与えてくれるものと確信しております。地域のイメージアップと活性化に寄与出来ることでしょうか。この点では郡山市内の他の建築物も一緒に実施するのが良いかとも思われます。大先輩格の「開成館」はじめ「公会堂」、「市民文化センター」等明治、大正から現代に至る市内の有名建築を点または線で結んで光りの流れを実現できたら素晴らしいことではないでしょうか。われわれの誇りである本館を世の中に向かってキャンペーンし、後世にも伝えていかなければなりません。

安積にもっと光を！ (帝人殖産)



電気工事業

株式会社

郡山電機製作所

本社工場

〒963 福島県郡山市富久町久保田字本木五四番地

☎郡山 0249(32)2686(代表)

FAX郡山 0429(32)7743

山形営業所

〒999-31 山形県上山市永野字川原2844-3

☎上山 0236(79)2701

代表取締役

成田 幸一 (52期)

事務局便り

■会員の消息をお知らせ下さい

会員の叙勲、受賞、人事異動等の情報や訃報がありましたらお知らせ下さい。会として出来るだけ祝電や弔電を差し上げるなどして、意のあるところを示したいと思えます。また、会報に取り上げ、会員へのお知らせをしたいと考えております。

■「安積健児の像」レリーフの頒布について

日本館前に立つ母校の新しいシンボル「安積健児の像」をその作家佐藤静司さん(45期)がレリーフ化したもので、当会の特製品です。頒布は3万円ですが、本年は頒布先を郡山をはじめ、他の支部にも広めたいと思っております。よろしくご協力をお願いします。

■「安高 100周年記念」ビデオ等の貸出しについて

事務局では、母校や先輩に関するビデオを2本入手しました。1本は母校創立100周年を記念し、福島テレビが制作放映したビデオ(60分)で、記念式典や記念祭の盛り上がりを中心にした大変楽しく胸の高鳴りを覚えるビデオです。そしてもう1本は、先輩の朝河貫一博士の生涯と業績を描いた「遙かなる光芒〜朝河貫一〜」と言うスペシャル番組のビデオです。

ご覧になりたい方は、事務局へお申し出下さい。お貸しします。(斉藤)

■事務局の移転について

この程事務局が下記に移転し、事務局長も交替いたしましたのでよろしくお祈りします。前任の事務局長星武典氏及び会計事務所の岡本啓子さんには、

大変ご苦労さまでした。

また、斉藤法律事務所の事務員である小松弥生さんに正式に当会の事務を委嘱することになりました。小松さんは大変明るく快活で熱意ある方で、よろしくお祈りいたします。

新事務局

〒160 新宿区新宿1-3-8

YKB 新宿御苑804

斉藤法律事務所内 東京桑野会事務局

Tel 356-6677 (FAX-356-6678)

事務局長 斉藤英彦 (69期)

事務局員 小松弥生

■東京桑野会会員名簿改訂について

100周年記念の名簿が出版されて約4年が過ぎ、90期以降の新会員の増加及び住所等の変更も多く、名簿改訂と出版を役員会で決定しました。昨年の幹事会で各期の名簿の整理をお願いしております。

事務局では、4月の総会に間に合うように、努力しておりますが、各期幹事からの返事のない部分等あり、現在努力中です。場合によっては、来年に出版と言う事態も考えられますがよろしくお祈りします。(櫻井)

編集後記

今回は忙しさのため、編集会議にもあまり参加できず、最後になって校正の赤ペンを入れるだけで申し訳なく思っています。顔を出すごとに見事に仕上がっている原稿を見て、広報部会(私を除く)の有能さに感心し将来も安泰であらうと思った次第です。(坂本)

仕事に追われ、歯痛に襲われながらの校正。何分、自分にとっては初めて

のことで水口さん、櫻井さんにはすっかりおんぶしてしまい申し訳なく思っています。でも、12号の発行のメドも立った今、こんな私でもなんとなく充実した気分になってます。(小野崎)

久しぶりに、広報部会に顔を出しました。諸事情により前号の編集には全く関与せず、今回もさぼろうと思っていたところ、「鬼の櫻井」の顔が夢に登場し、魅入られたように櫻井事務所に現れてしまいました。結局赤い顔をしてお終いになりそうです。(村上)

昨年4月の総会に初めて参加させていただき、上京8年目にしてやっと東京桑野会の名簿に名前を連ねさせていただきました。若年層への連絡網の不備を感じていた折、幹事・広報部の仕事を頂きましたが、余りお手伝いもせずに終わってしまいました。(山田)

1月末から土曜日に集まり、原稿が足りない、広告はどうしようかと、水口氏と悩み、何とかなるよといいながら酒を飲む。どうにかこうにか12号に間に合いました。今回は山田さん小野崎さんと若い人が参加され、広報部も力強くなりました。来年度から丹治氏の東京都心への復帰も決まり、心強く思っています。(櫻井)

会報12号をお届けします。9・10・11号と続けた「特集の座談会」は今号は見送りましたが、90年代のフレッシュな会員から多くの寄稿を頂き感謝します。今年10月に刊行が計画されている「朝河貫一書簡集」の頒布については会員皆様の御協力をお願い致します。会報の表紙には故水田荘介先生の「朝河貫一博士の肖像画」を使わせて頂きました。(水口)



★安積健児像★

日展評議員
佐藤静司氏(45期卒)制作

*企画部からのお知らせ

母校創立百周年記念事業として制作されたブロンズ像のレリーフです。『明治』『人正』『昭和』三代の安積健児を表現しています。ご希望の方に実費でお届けいたします(14.4号×17.5号) 頒 価 30,000円(送料込み)

問合せ先 〒160東京都新宿区新宿1-3-8 YKB新宿御苑804 斉藤法律事務所
電話 03(356)6677 斉藤英彦 69期